

日本放射線安全管理学会学術大会 出張報告

○福井 宥平

産業科学研究所技術室工作班

1. 派遣先の機関名及び派遣期間

派遣先:大阪大学吹田キャンパス コンベンションセンター

派遣期間:令和6年12月16日(月)～18日(水)

2. 派遣用務(研修テーマ)

本学術大会に参加し、ライナック棟改修に関するポスターを通して、他の RI 施設での同様の事例について情報共有を行う。また大会の実行委員として、学会運営についても経験しながら学ぶ。

3. 研修の概要及び成果

3日間を通して、特別講演、受賞公園、企画セッション、企画委員会報告、口頭発表、ポスター発表と多様なプログラムが生まれ、充実した学術大会にできたと思う。

4. 研修の感想又は希望等

ライナック棟改修に関するポスター発表を行い、他大学で同様に加速器移設作業を経験した方とお話する機会を得られた。お互いに移設までの段階で大変だったことの共有や、今後の復旧に向けて注意すべき点等を教えていただくことができ、大変有意義な時間を過ごせたと思う。ぜひここで得た情報を活用してスムーズな復旧に役立てたいと思う。

その他では、放射線施設での火災対応の企画セッションが興味深いものであった。特に「東京大学アイソトープ総合センターにおける火災予防条例への対応」と題した講演では、過去の変更承認申請から始まり、所轄の消防署からの連絡を受け、現地訪問と指導とその対応までを時系列に沿って紹介がなされた。講演の中で火災予防条例は自治体によりその中身に差があると話があり、阪大については現時点で対象外であることが分かった。今後、阪大の各キャンパスが該当する自治体の条例が改正されることがあった場合に備えて、今回のお話は頭の片隅に入れておきたいと思う。

また本学術大会の実行委員としては、主に初日朝からの会場設営、会期中の現場対応、閉会後の撤収作業を担当した。今回の規模感での運営に必要な人員、時間が体験して分かったため、今後再び実行委員を仰せつかる際はこの経験を活かして円滑な運営に役立てたいと思う。